

# 子どもと女性の健康相談室

89



福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授

横山 浩之氏

「落ち着きがない」挙げられます。アレルギー性鼻炎では、鼻づまりがひどいと、眠りに就くのが難しくなる上、睡眠中に目覚める外から始めます。有名なのは甲状腺疾患ですが、これはまれです。逆によくあるのは、睡眠障害やアレルギー疾患です。睡眠の大切さ

治療は外用ステロイド薬と2歳からのタクロリムス軟膏しかありませんでした。しかし近年新しい治療薬が次々と発売され、治療の選択肢が増えていきます。良くなっても塗り薬を中断せず、プロアクティブ療法といって、徐々に保湿剤へ切り替えるのがコツです。

## 「多動あり」の誤解に

「多動あり」と周知されています。アレルギードライ（第5版）にも、鑑別しては、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギーなどが

状態のコントロールにより体をかく行動がなくなれば、熟睡できるようになり行動も落ち着きますので、スペース肌を維持するのが大切になります。そのためには、スキンケアで皮膚を清潔に保つことと、適切な量で保湿

### アレルギードライ疾患

次回は9月25日